



音楽の授業を楽しく、子どもたちを飽きさせず、段取りよくやっていく実践を考えてきました。色々紹介しますので、これ使える！と感じられたら、どんどん取り入れてやってみてください。

関係する「音楽を形づくっている要素」は枠囲みで記入しています。

## 1 おもちのチャチャチャ

活動	解説・ポイント・声かけ・ねらい
<p>① チャチャチャの部分で手拍子を打つ。隣の人と手を合わせて打つ。(「チャチャチャおもちのチャチャチャ」下線部分も打つことを忘れないで。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何の隙も与えないこと。次から次へと活動させる。隙間があると児童は学習と関係のないことをする。</li> <li>・背中をぴんと伸ばすといい声出るよ。</li> <li>・「曲を覚えた人は、こっち向いて」→向いたら「みんな天才！」とほめる。</li> </ul>
<p>② ペアでチャチャチャのリズムで手を合わせる。チャチャチャのフレーズが終わったら、「じゃんけんぽん」で勝った人は右側、負けた人は左側に移動。次のペアを見つけ、同じことの繰り返し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動の目的は、<u>拍を感じ取り共有すること。</u>拍の共有ができないとじゃんけんはできない。<u>活動を通して音楽を形づくっている要素を身に付ける。</u></li> <li>・どうすれば面白いかと活動を考えているが、<u>活動には「ねらい」がある。</u>曲を通して何を教えるか、何のために今日、その活動をするのかを考えている。</li> <li>・<u>隙間なく、段取りよく、目的以外のことで遊ばせない。</u></li> <li>・次々に活動できるように準備しておく。100回やっても101回目のリクエストが来るように考えておく。どうしたらめちゃくちゃにならないか考え、子どもに背を向けない。</li> <li>・うまくいかないときは、教師に責任がある。</li> </ul>

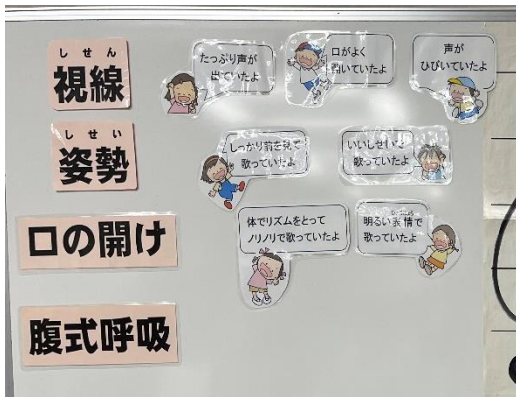
## 2 やまびこごっこ

活動	解説・ポイント・声かけ・ねらい
<p>① 呼びかけとこたえで歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生→児童</li> <li>・児童→先生</li> <li>・右半分の児童→左半分の児童</li> </ul> <p>② 色々な声の音色で歌ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぞうさん(太く低い声)→アリさん(小さくかわいい声)</li> </ul>  <p>先生:「そこへ」、児童:(そこへ) 先生:「ドラえもんがやってきた」で場面転換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラえもん→しんのすけ</li> <li>・ミッキーマウス→ドナルドダック</li> <li>・怪獣(怒鳴るような声)→天使(きれいな声)</li> <li>・全部を天使の声で歌う。</li> </ul> <p>③ 4連のやまびこごっこ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4列に分かれて、4連のやまびこごっこをする。</li> <li>・強弱の変化を付ける。</li> </ul> <p>クレッシェンド、デクレッシェンド</p>	<p><b>呼びかけとこたえ</b></p> <p>うちわを活用すると指示が視覚化され明確。裏表活用できる。言葉で言わなくていい。片手で指示が可能。もう片手で電子ピアノの操作などができる。児童に迫っていくときも効果抜群。</p>  <p><b>声の音色</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天使の声で歌うとすてきだね。気持ちいいね。</li> </ul> <p><b>強弱</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4連でクレッシェンド、デクレッシェンドするときは、<u>他の列の声をよく聴いて、強さを調整する必要がある。</u>他の歌声を聴かざるを得ないような状況をつくっている。</li> <li>・低学年のうちに楽しみながら活動することで、強弱、音色、呼びかけとこたえについて学習する。</li> </ul>

### 3 ふじ山

活動	解説・ポイント・声かけ・ねらい
<p>① 楽譜を指でたどりながら、範唱を聴く。</p> <p>② 音符の符頭を指で押さえながら、範唱を聴く。</p> <p>③ 第3間のドは、手を上に ド以外の音は、手を肩の高さに 下第1線のドは、手を下に</p>  <p>だんだん速度を速くする。繰り返し楽譜を見て歌いながら、旋律と楽譜のドの位置を覚える。</p> <p>④ 曲の山は、どこにあるか考える。</p> 	<p>解説・ポイント・声かけ・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜をたどるとき、多くの児童は歌詞のひらがなの文字をたどっている。</li> <li>・音符の符頭を指で押さえることにより、音の高さに意識が向く。 <b>旋律</b></li> </ul>    <p>・ドの位置を覚えれば、ほかの階名は数えて読めばよいのです。まずは、ドを覚えましょう。</p> <p>・児童が考えて答えが出てこない時もあるので、曲の山は「ふじは」のところだと、知識を入れてもよい。引き出しに入っていないものは出てこない。</p>

- ⑤ 怪獣の声、天使の声で歌ってみる。
- ・うちわで指示して、怪獣と天使を交互に歌わせる。
  - ・歌詞に意識を向け、怪獣と天使の声の両方で、歌詞を読む。
  - ・天使の声で九九の二の段を言う。
  - ・すべて天使の声で歌う。
  - ・天使の声を響かせるために必要なことを確認する。



- ⑥ 電子ピアノの移調機能などを使って半音ずつ高く歌ってみる。姿勢、視線、口の開け方、腹式呼吸に気を付けながら、曲の山を意識して表現し、響くポイントを見つける。
- ⑦ 二人組になって一人ずつ歌い、もう一人は聞き役になり、よかったところを言う。

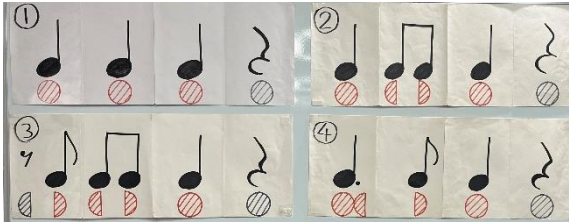
- ・怪獣と天使の音色の使い分けで、声の切り替えができるようになる。声の切り替えで遊ぶことができる。
- ・天使の声で歌うと、気持ちいい、きれい、と気づかせる。
- ・きれいな声で響かせるためには、視線、姿勢、口の開け、複式呼吸に気を付ける。「ちょこ、ペタ、ピン」で座るといい。



この技を使ったらいい声が出ると分かったり、習ったことを使ったりすることは、児童にとって楽しいこと。自分たちが使った技が自覚できるようにすることが重要。学びっぱなしにしない。自覚する場の設定が必要。

教師は、「なんて言ってもらった?」と聞き、「よかったね。」「よく聞いてたね」とほめる。相手のよかったことを認めたり、自分が認められたりするのはいいい気分。歌がうまいかと思える。楽しくなる。楽しめる力は生きる力。

## 4 常時活動

活動	解説・ポイント・声かけ・ねらい
<p>(1) 腹式呼吸</p> <p>① おへそに力を入れて息を「スー」と8拍続けて吐く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・pで8拍、fで8拍</li> <li>・クレッシェンド</li> <li>・デクレッシェンド</li> <li>・高音で「オー」</li> </ul> <p>(2) ハーモニー練習</p> <p>① お は よー(指揮をして伸ばす) ミ ソ ドー(ソプラノ)</p> <p>② 半音ずつ上げる。目をしっかり開けておなかに力</p> <p>③ お は よー ソ ソ ソー(アルト)</p> <p>④ ソプラノとアルトを重ねる。</p> <p>(3) リズムドリル</p> <p>① エンターテイナーの曲に合わせて、下の①～④のリズムを打つ。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生①→児童①→先生②→児童②→</li> <li>・先生①②③④→児童①②③④</li> <li>・先生の代わりに児童の代表が打つ。</li> <li>・慣れてきたら音楽係が「今日のリズム」を掲示し、それを打つ。</li> </ul>	<p>解説・ポイント・声かけ・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常時活動として必ずこれから始める。</li> <li>・いつもやっていることから始めると、どの児童も参加しやすい。</li> <li>・時々後ろから児童を観察し、「背中で頑張っていることがわかるよ」と声掛けする。</li> <li>・<b>強弱</b>を意識</li> </ul> <p><b>音の重なり</b>方には、追いかけて型、バラバラ型、縦ピタ型がある。縦ピタ型は難しいので、少しずつ重なるような形や、どちらかのパートが固定された形からハーモニー練習をする。</p> <p><b>リズム</b> だんだん<b>速度</b>を速くする。MID音源の活用</p> <p>関連する内容を平常の授業の活動と組み合わせて実践する。</p>

## 5 スキーの歌

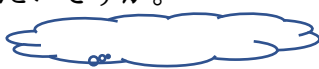
活動	解説・ポイント・声かけ・ねらい
<p>① 楽譜を指でたどりながら範唱を聴く。</p> <p>② フレーズごとに教師の範唱に合わせて歌う。(フレーズ唱)</p> <p>③ 高音は、目に星、口三本、のど開け</p>  <p>④ 旋律の上がり下がり意識を向ける。          ・1 段目と 2 段目の違い          同じ歌詞、何が違う? → 旋律の動き          ・符頭を指でたどる。          ・符頭を鼻でたどる。          ・符頭をへそでたどる。          ・1 段目の上がり下がりが激しい。2 段目はなめらか。</p> <p>⑤ タッカとタタの「リズム」について考える。          ・はずむのはタッカさん          ・歌い方をどうするか、考える。</p>	<p>目に星 → </p> <p>これらの活動を通して、<u>旋律の上がり下がり</u>が音楽に与える影響を考えさせる。</p> <p>なぜこのような変化が付けてあるのかな。</p> <p>スキーを知らない児童も、スキーの様子を想像しながら、<u>リズム</u>も手がかりの一つにして滑るつもりで、できるだけ身近に感じるようにする。</p>

**歌詞**

力をこめて  
力強く  
明るい表情  
遠くまで響かせる  
届けるように



## 6 ワンチーム

活動	解説・ポイント・声かけ・ねらい			
<p>(1)ポイント指導 母音の発音に注意:O は、卵を縦にした口 mp:口をはっきり開けて発音 あびて:口の天井を上げて クレッシェンド:目に星、おなかに力</p>	<p>この曲は、学年のスローガンだった「ワンチーム」を題名として、学年全体が進んでいくために、あの手この手の1つとして作曲した曲</p>			
<p>(2)口ぱくクイズ 2人組で、1人が口パクをして、もう一人が1番の歌詞か2番の歌詞か当てる。</p>	<p>口をはっきり開けない実態を改善するためのクイズゲーム</p>			
<p>(3)二部合唱のつくり方(MID活用)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>① アルトだけ ② アルト+ソプラノ ③ アルト+ソプラノ+伴奏</p> </td> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle; padding-left: 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle;">聴く</td> </tr> </table>	<p>① アルトだけ ② アルト+ソプラノ ③ アルト+ソプラノ+伴奏</p>	}	聴く	<p>いずれもアルトを意識して聴く活動をする。 <u>聴こえるようになれば歌える。</u></p>
<p>① アルトだけ ② アルト+ソプラノ ③ アルト+ソプラノ+伴奏</p>	}	聴く		
<p>(4)表現工夫 ワンチームの最後は、どんな気持ちを込めたいですか。 の中に書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現工夫は、全部は難しいので、部分的に絞って行うとよい。</li> <li>・言葉の少ない児童には、<u>歌詞の中から頼りになる言葉を使ってよいとする。</u></li> <li>・児童が考えている時間、意見を小ホワイトボードに記録して、発表予約</li> </ul>			
<p>(5)意見集約 「ありがとう、みんな仲間だよ」という気持ち相手に伝えるためにどう歌う？ 歌声が届くようにみんなでやる。まとまって聞こえるようにする。やった方が楽しい。面白い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで意見を言い合い、「相手の人は何と書いていましたか」と発問。<u>相手の意見を聞かないといけない設定。</u></li> <li>・こんな意見が出た→やってみよう！となるように</li> <li>・<u>先生が楽しいと児童も楽しい。</u></li> </ul>			